

教育だより

今、歴史民俗資料館の土曜体験教室が熱い!!

皆さんは、歴史民俗資料館で行われている「土曜体験教室」を知っていますか？今回の特集は、平成17年から歴史民俗資料館で実施している「土曜体験教室」を紹介いたします。



作ったうちわを手に「ハイ！チーズ」
（「オリジナルうちわを作るう」より）



気分はすっかり考古学者!?
（「土器バスルに挑戦」より）

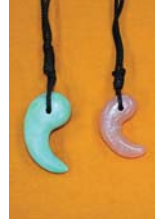
■土曜体験教室とは

土曜体験教室は、完全学校週5日制に対応するプログラムとして、平成17年1月から実施しています。毎月1〜2回（および第2・第4土曜日）、ほとんどの内容が事前申込みや参加費は不要で、気軽に参加できるものとなりました。子どもたちはもちろんのこと、大人の方にも大好評です。体験を通して、三芳の歴史や昔の暮らしを身近に感じ、親しんで知識を深めていただくきっかけになればと企画したものです。

■これまでの土曜体験教室

土曜体験教室で実施している内容は、ちょっとした手間と時間で作れる工作と、昔の暮らしの中で使われていた道具を実際に使う体験の2つに分けられます。ここでは、これまで実施した土曜体験教室の中から、特に好評を博した内容を紹介します。

まが玉のペンダントを作ろう
まが玉とは、原始古代の人々が主に石を使って作った装飾品です。埼玉県内各地の発掘調査で出土し、埼玉県庁の県章のモチーフにもなっています。



まが玉のペンダント

土曜体験教室で作る「まが玉」は、滑石という加工しやすい軟らかい石を、ひたすら紙ヤスリで削り、最後に磨いて好きな色をつけたり、最後に磨いて好きな色をつけたり完成です。子どもだけでなく、大人も熱中してしまう大人気の内容です。



もう少して「まが玉」の完成だ!

竹の水でっぼう作り
昔は、現在ほど物が豊かでなかったけれど、子どもたちは身近にあるものを使って、創意と工夫で

遊びを楽しみました。竹の水でっぼうの材料は、身近にある真竹の一節を使います。節目にキリで小さい孔を明け、水を押し出す細い竹の先に、スポンジと布をまいたら完成です。このように加工はすごく簡単ですが、問題は、うまく水を吸い上げたり押し出したりするスポンジと布の巻き加減の調整です。子どもたちは、水でびしょびしょになりながら、手作りの水でっぼうを楽しんでいました。



よしっ、今度はうまく飛んだ!

まゆ玉飾りを作ろう
かつて三芳やその周辺の農家では、小正月（1月15日頃）に「まゆ玉飾り」を作りました。「まゆ玉飾り」とは、その年の豊作や養蚕の成功を願って、上新粉で作っ



私も頑張って丸めるよ。

これからの土曜体験教室

つむいだとありますが、実際に体験してみると地道で大変な作業です。教科書の内容を、体験として身近に感じることのできる貴重な体験として好評です。



すごい！綿から糸ができた

さて、6年目を迎えた土曜体験教室は、これからもさらに充実した内容を計画しています。今後の土曜体験教室については、掲示板や学校からのチラシ等でご案内いたします。これからも、歴史民俗資料館からの情報はかかさずチェックして、ぜひ参加してみてください。

問い合わせ（内容・イベント等）
歴史民俗資料館
258-16655

火打石を使ってみよう

マッチやライターがなかった時代、人々は火打石を使って火種を作っていました。火打石と火打金を打ちつけることで火花が飛び、その火花を火口に落とすことで、火種を燃えやすいものに移して大きな炎にします。



「なんだ、簡単じゃない！」と思ったら大間違い。火打石と火打金を打ちつける位置や角度によって、火花が出たり出なかったり、ねらったところに火花が飛ばなかったり！これが意外と難しいのです。その分、火がおこせた時の感動はひとしおです。

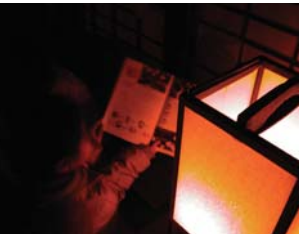


だいぶ火花が飛ぶようになったぞ!

昔のあかりを体験しよう

電球や蛍光灯がなかった時代、

夜の屋内は灯明やろうそく、石油ランプのあかりの下で、読書や夜なべ仕事を行いました。この体験は、古民家や土蔵を使い暗闇を再現、その中で灯明やろうそく、石油ランプのあかりを体感してもらおうという内容です。



近づけないとみえないね

心もとなないあかりの下、最初はほとんど何も見えませんが、目が慣れてくるにつれて、次第に手元やまわりの様子が見えてきます。昔の暮らしの苦労を垣間見るとともに、無駄なあかりの多い現代を考え直すきっかけとなったかな？

井戸で水くみ・水運び

旧池上家住宅の庭には、車井戸とポンプ井戸のふたつの井戸が再現されています。これらの井戸から実際に水をくみ、天秤棒と桶を使って運ぶという体験です。

体験！「たぬきの糸車」

「キーカラカラ キークルクル」という擬音が特徴的なお話の『たぬきの糸車』。町では、小学1年生の国語の教科書に掲載されているお話です。

このお話の中でたぬきが使っている糸車は、木綿を細く引き出してよりをかけ、糸にして巻き取る「糸つむぎ」の道具です。おかみさんの作業を見よう見まねで覚えただたぬきは、上手な手つきで糸を



桶をいっぱいにするのは大変だあ!

一度にくむ水の量は少しずつ、運ぶ距離もわずかですが、それでも慣れない作業に子どもも大人も大苦戦です。水道の蛇口をひねれば簡単に水が出る現在の生活と違い、水を得るありがたみを再認識できる体験といえます。

8月のイベント

七夕飾りとまんじゅう作り

- ◆日時 8月7日(土) 午前10時～正午
- ◆場所 旧池上家住宅（歴史民俗資料館敷地内）
- ◆対象 子どもから大人まで（ただし、小学2年生以下は保護者の同伴をお願いします。）
- ◆定員 20名 ◆参加費 200円

草木染め体験

- ◆日時 8月20日(金) ①午前10時～正午 ②午後1時30分～午後3時30分
- ◆場所 歴史民俗資料館
- ◆対象 子どもから大人まで（ただし、小学2年生以下は保護者の同伴をお願いします。）
- ◆定員 ①・②とも20名ずつ
- ◆参加費 500円



民家に飾られた「まゆ玉飾り」

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



8月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	休	3	4	5	6
8	9	休	10	11	12	13
15	16	休	17	18	19	20
22	23	休	24	25	26	27
29	30	休	31			

＜中央図書館＞
ぐりぐりタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
 第1・3金曜日 (保護者同伴)
 11:00～11:15 6ヶ月～1歳
 11:20～11:40 2・3歳
 第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳
とじょかん・くらぶ 会員制
 (読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)
 10:00～11:00 1・2年生
 11:10～12:00 3～6年生
★夏休み科学工作教室 <中央図書館にて申込み受付中。電話不可> ①10:00～12:00 / 1・2年生 (35人) 磁石のおもちゃや初級 ②13:30～15:30 / 3～6年生 (35人) 磁石のおもちゃや中級
☆夏のおはなし会 (昔語りと紙芝居)
 <中央図書館にて申込み受付中。電話可>
 ① 10:00～10:40 / 5歳～2年生 (40人) 親子で楽しめるお話 ② 11:00～12:00 / 3年生～おとな (40人) 聞きごたえのあるお話 <竹間沢分館>
竹間沢ぐりぐりタイム (第4火曜日)
 11:00～11:30 1～4歳
◆スイミーおはなし会 (第4木曜日)
 (絵本・紙芝居・ブックトーク)
 16:00～16:30 4歳～小学生
地域文庫のお知らせ つくし文庫、あらた文庫とも、8月はお休みします。



【児童書】「ほてなるほどサイエンス6 わごムのおもちゃ」
 実野恒久著
 保育社 一九八四年四月発行
 請求記号 児童407ジ
 わごムの釣りに糸で魚釣り。厚紙とわごムだけで仕上げられる「はねカエル」。わごムの鉄砲、ばたばたポトなどを、小さい子でも自分で作れるおもちゃと遊び方を写真とイラストで紹介する。



【一般書】「子どもにウケる科学手品77」
 バクトが凄く！
 後藤道夫著
 講談社 一九九一年十一月発行
 請求記号 407ゴト
 やかんが宙に浮く手品、ようじが水面を走る手品。身近にあるものしか使っていないのに、子どもがアッと驚き目を離かせる手品のオンパレード。タネは「自然現象」と「科学」です。



【児童書】「よわいひかみ つよひかたち」
 かごとし著・絵
 童心社 一九八八年九月発行
 請求記号 児童423カ
 弱い紙でも、切った折った折って形を変えると強い紙になる。それを、はがきを使った楽しい実験で立証してみよう。イラストつき説明がわかりやすい。力学の原点も教えてくれる。



【児童書】「コップの実験」
 相場博明著 藤田ひおこ絵
 さ・え・ら書房 一九九五年十月発行
 請求記号 児童404ア
 紙コップの上へ人間が飛んでもつれない方法を実験したり、コップで聴診器を作ったり、昆虫採集をしたり。コップを使う17種類の実験や遊びを紹介。「科学の目」を育みたい。

図書館の本棚より 親子で楽しめる「科学あそびの本」別冊紹介中

健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。

問い合わせ 総合体育館 ☎258-0311

猛暑、いかがお過ごしでしょうか？この時期は発汗により身体からミネラル成分が抜けやすくなります。ミネラル成分の不足は、筋肉の「けいれん」や「つり」につながりやすくなります。水分補給としてお茶や水を摂取するだけでは、血液中のミネラルは薄まってしまいます。市販のスポーツドリンクを水などで薄めて飲んだり、日常の料理の味付けを濃くしたりする工夫が、予防対策となります。この季節、暑い時間の屋外の運動は、極力避けましょう。

①少人数制レッスン(第Ⅲ期)

クラス	癒しのヨガ	らくらく健康体操
講師	大塚 晴美	溝越 優貴子
日程	8 / 31 9 / 7, 21, 28 10 / 5, 12, 19, 26 全て火曜日 (全8回)	9 / 2, 9, 16, 23, 30 10 / 7, 14, 21 全て木曜日 (全8回)
時間	11:30～12:30	11:15～12:15
場所	多目的室	武道場
定員	15人	15人
料金	4,000円	4,000円

②親子ピクス (第Ⅲ期)

クラス	親子ピクス (ひよこクラス)	親子ピクス (こっこクラス)
講師	戸井 玲子	
日程	9 / 7, 14, 21, 28 10 / 5, 12, 19, 26, 全て火曜日 (全8回)	
時間	10:00～11:00	11:00～12:00
場所	武道場	
定員	20組	20組
料金	4,000円	4,000円
対象	1～2歳 (立つことができる子から)	2～4歳

※親子ピクスは、継続申込の方を優先受付させていただきます。
 ①②ともに、8月9日(月)午前10時より受け付けを開始します。直接来館、または電話にて申し込みください。

教育トピックス



日本とオーストラリアの架け橋

町では、国際理解教育の一環として、オーストラリア少年少女親善訪問団を受け入れてます。今年は6月28日(月)から7月6日(火)までの8日間、オーストラリア南東部、ブリスベンのアスコット小学校より2人の先生と12人の子どもたちがやってきました。オーストラリアから成田空港へ出て、町役場へと長旅を終え、到着したのは夜10時過ぎ。満面の笑顔でバスケットや飛び箱を行いました。シュートが決まると日本の子どもたちから「さすが！」との声や拍手が起こる場面もありました。長旅の疲れも町の子どもたちとの交流で吹っ飛んでしまったようです。町の子どもたちからは、「友達になったら一日でした。最後になりますが、ホームステイ先のホストファミリーの皆様、ボランティアの皆様、アスコット小学校の子どもたちを温かく受け入れてくださっています、ありがとうございます。」
 ※広報みよし9月号(教育だより)にて「オーストラリア少年少女親善訪問団」の特集掲載する予定です。

それでも元気いっぱいの子どもたちは、初対面のホストファミリーの迎えでそれぞれの家に行き、初めての日本の夜を過ごしました。翌29日は藤久保小学校で、また翌日30日は唐沢小学校で交流会が行われました。各学校では日本の子どもたちと一緒に授業にも参加しました。習字では筆の持ち方から教えてもらい一生懸命書いていました。中には「もっと新しい漢字が書きたい」というリクエストも出ていました。また、体育では汗びっしょりになりながら満面の笑顔でバスケットや飛び箱を行いました。シュートが決まると日本の子どもたちから「さすが！」との声や拍手が起こる場面もありました。長旅の疲れも町の子どもたちとの交流で吹っ飛んでしまったようです。町の子どもたちからは、「友達になったら一日でした。最後になりますが、ホームステイ先のホストファミリーの皆様、ボランティアの皆様、アスコット小学校の子どもたちを温かく受け入れてくださっています、ありがとうございます。」



技の文化財

第5回 ダルマ屋

商光繁盛・招福開運などさまざまな願かけに使われるダルマ。正月から三月ごろにかけて、各地でダルマ市が開かれます。ダルマの産地は群馬県高崎市が有名ですが、埼玉県もダルマ作りが盛んな地域です。県内で作られるダルマは「武州ダルマ」と呼ばれ、特に越谷・春日部・さいたま市岩槻区が最も盛んで、そのほかに川越や秩父、さいたま市浦和区でも作られています。

ダルマ作りは、農家の冬場の副業として行われ、その職人は「ダルマ屋」と呼ばれていました。ダルマ作りの技術は、職人のところへ何年も修行に行つて習得します。本家、分家などを頼つて教えるので、ダルマ屋の多くは親戚関係でした。三芳町でも上富字八軒家の前島家と分家では、昭和二十一年ごろまで冬場の副業としてダルマを作っていました。

前島家のダルマ作りは、先代々の萬吉氏が始めたものです。前島家で聞くところでは、萬吉氏は三ヶ島(所沢市)付近でダルマ作りを習い、家族でダルマを作るようになったといわれています。作ったダルマは、川越喜多院や大宮永川神社のダルマ市で販売していました。

かつて前島家では張り子のダルマを生産しており、その木型が残されています。木型の鼻には、長年の使用によって欠けてしまった鼻を修復するために打たれた釘の跡や、頭頂部には張り子を貼るための刃のすり跡が見られます。ダルマの屋号として、木型は宝です。修復しながら、大事に使われていた様子うかがえます。

ダルマの製造方法は、機械で均一に作る事ができる「真空成型」と木型を使った伝統的な「張り子」の二種類があります。大量生産でき、形の整った真空成型のダルマが現在のダルマ作りの主流です。一方、張り子のダルマは、和紙を木型に貼って乾かし、背中を半分に割つて木型から取り出します。一個ずつを手張り生産する張り子ダルマは、一つとして同じものがなく、味わいがあります。また、買い手としても、自分の好みや合ったダルマを見つめる楽しみがあります。

前島家のダルマの木型。招き猫ならぬ本物の猫とともに招福開運をお願いしたいところです。

